学生図書委員だより

発行　二〇一〇年二月
編集　学生図書委員
No.13

今月の猫二匹

曇り日のなぎさ岩むら白猫(はくめう)は
アンチ・ロマンのごとく歩めり
――小中英之

しなやかな輪郭が、曇り空の渚に揺らむ。アンニュイにして孤高の香り、これぞ猫の歌。

かたわらにいのちのぬくみかよい合う
猫と知りつつふたたびねむる
――引野収

音もなくそっと寄ってくる柔らかさ。まどろみは浅くて幸福、愛猫との日なたぼっこ。

そりゃあ猫に決まっているでしょう！　あのそっけない態度、つんとした愛らしさ。何より、猫には孤高の美しさってものがあります。猫好き作家には保坂和志、群ようこ、町田康など。「世界のハルキ」こと村上春樹も猫派！

文豪では谷崎潤一郎や三島由紀夫など、その作風からも「猫好き」が納得できますよね。外国で猫好き作家として有名なのは、なんといってもポール・ギャリコでしょう。猫から原稿を送られて、それを翻訳した（！）という『猫語の教科書』という本まで出しているのです。

猫好き小説を挙げてみると、『夏への扉』（ロバート・A・ハインライン）、『猫の地球儀』（秋山瑞人）などのSFから、ミステリーでは赤川次郎の〈三毛猫ホームズ〉シリーズと、リリアン・J・ブラウンの〈シャム猫ココ〉シリーズが有名です。

特集　あなたは犬派？　それとも猫派？

犬よりかわいい生き物はいませんよ！　人懐っこくて忠誠心が高くて、人間のパートナーはやっぱり犬。犬好き作家には椎名誠、江國香織、小川洋子などが有名でしょうか。伊坂幸太郎の作品にもよく犬が出てくるね。

川端康成と志賀直哉は作家の二大犬派なんて呼ばれていた（？）そうで、大変なかわいがりようだったみたい。そして犬の小説といえば、日本には『南総里見八犬伝』があります。これは登場人物の名前からして犬のモチーフがてんこ盛りですよね。

犬は猫に比べると主役とはっきり言えるものが少なく、パートナー的な色合いが濃ゆいです。短篇ながらオススメなのは、「犬の生活」（小山清。『短篇礼賛』に収録）。犬を前面に押し出すとなると、『ベルカ、吠えないのか？』（古川日出男）や『白い牙』『野性の呼び声』（ジャック・ロンドン）など、野生寄り（狼寄り）の内容になっちゃうみたいですね。

➜犬と猫のどっちかなんて選べない！という方には、『チャペックの犬と猫のお話』（カレル・チャペック）、『ヒトのオスは飼わないの？』（米原万里）をどうぞ！

今月の犬二匹

犬どちの顎のせて寝る椅子の縁、
擦り剥けたるも憎からなくに
――平岩米吉

そのとぼけた寝顔も、いつも同じ場所で寝る律儀さも、いっそこっちが負けちゃうよ。

わが庭に一生(ひとよ)をすごす生命(いのち)ゆゑ
時の間惜しみ共にあそばむ
――平岩米吉

遊ぼう遊ぼう、一緒のときを共に過ごそう。いつかの未来でも、君と走り回るために。